

社団法人日本金型工業会 西部支部通信

No. 2 (平成23年8月配布)

<お知らせ>

■型青会(西部支部若手の会)

西部支部の若手の会である型青会は、社団法人日本金型工業会を退会と同時に会員資格を失いますので、残られた会員の皆様で新しい型青会の活動を行いますのでご連絡をお待ち下さい。

■経産省に会員リスト提出

経済産業省がより工業会所属会員企業掌握のための会員データ(会社名・代表者・住所・電話番号・所属支部)提出が求められましたので、メリット有りと考え現時点での正会員・賛助会員の会員データを経産省に提出致しましたのでご報告申し上げます。

■経産省<金型担当>人事異動

経済産業省における「金型」の担当部署は「素形材産業室」です。その素形材産業室の人事異動についてお知らせ致します。

今回、素形材産業室に着任した皆様

<7月11日付着任>

経済産業省製造産業局素形材産業室

室長 田中哲也様

<6月16日付着任>

経済産業省製造産業局素形材産業室

課長補佐 伊奈友子様

<7月1日付着任>

経済産業省製造産業局素形材産業室

室長補佐 西沢正剛様

今後、以上の皆様には金型の現場に直接ご訪問頂き、西部支部の会員の皆様とも意見交換会をして頂き、金型現場の生の声を受け止めて頂くように致します。その時は皆さん、是非ご参加下さい。

■第2回西部支部役員会

日時 平成23年7月19日(火)

場所 大阪府商工会館 7階703会議室

1. 西部支部役員人事の件

西部支部長兼副会長については、役員会で検討の結果、三津江愿一郎理事を西部支部長に決定しました。

続いて、西部支部推薦の理事に関して検討した結果、堀口展男支部役員が理事に就任することが決定しました。

2. 平成23年度事業計画(案)検討

検討の結果、以下の(1)(2)(3)の事業に関して、西部支部の平成23年度事業として実施することが決定しました。

(1)「金型サロン in 大阪」事業について

型技術協会とのタイアップ事業として堀口支部役員を担当役員として推進することに決定しました。

日時 平成23年11月18日(金)

講演 日産自動車株式会社

副社長 今津英敏様

内容(仮称)日産自動車のEV戦略

講演会后、まずは名刺交換からということで、関西地域の大手金型ユーザー企業金型担当者並びに西部支部地域における大学の金型研究者との交流会開催します。

(2) 帝国データバンク提案のプロジェクト別事業について

本事業を堀口支部役員を担当役員として推進することに決定しました。

具体的には、ある目的(プロジェクト)をもって、その目的達成のための見学会並びに講演会を開催する。現在の苦境をただ生き残るのではなく、生き残り得を目指した企業体質改善を目指した新しい団体事業を実施する。

上手くいくかどうかやってみないとわからないが、とにかく従来とは違った体制で従来とは違った事業で挑戦することとなりました。

(3) その他事業については、基本的には実施する方向で事業毎で企画を進め、担当役員を決めて推進することになりました。

① 経済産業省との連携事業

西部支部メンバーと経産省金型担当官との意見交換会並びに西部支部メンバーの企業訪問

② ISO 9000・14000 取得に関する件

③ 産学官連携事業

とにかくテンポの早い世の流れに合わせた事業展開を実施することになりました。

3. 今後の西部支部運営に関する件

まずは西部支部が活動していることを会員並び

に退会会員に伝えることが重要として、堀口支部役員による助成金獲得入門セミナー並びに帝国データバンク提案による新事業の発表、さらに今回の分派活動の真相についての説明行うべきとの結論から早急に「西部支部全体勉強会」を開催することになりました。

尚、開催日については、紹介する助成金の締め切りが8月初旬であることから、締め切り前開催ということで7月26日（火）開催として、会場は帝国データバンク大阪支社会議室として開催することが決定しました。

また、退会した会員の中で再入会を検討している先も有るので、再入会における入会金免除について理事会に提案することが決定しました。

さらに社団法人日本金型工業会から配信される様々な情報は会員企業だけでなく、日本の金型業界の仲間として退会会員にも「西部支部通信」を含め何らかの方法で情報提供することが決定しました。

最後に、分派団体が同じ名称「日本金型工業会西部支部」を未だに使用していることについては、半年前に早急な名称変更を約束していながら、未だそのまま使用を続けるということは、金型図面流出問題と同じく他人の権利・財産を侵害することと同じであるので、今後も名称変更を求めることになりました。

■第1回西部支部全体勉強会

日時 平成23年 7月26日（火）

会場 帝国データバンク大阪支社 会議室

1. これまでと今後の西部支部運営の説明
何が分裂の原因だったのか、その経緯と今後の西部支部運営について
2. 新しい西部支部事業の紹介
～帝国データバンクからの提案～
従来事業のように、工場見学会を実施して、セミナーを実施してといったことではなく、企業自らが何をすべきか、その目的達成のためのプロジェクト別の活動提案
3. ニュービジネス助成金300万円の紹介と申込書の書き方
平成22年度に実際に助成金支給を受けた野田金型の堀口社長による助成金活用のすすめと申込書の書き方のコツについて講演が行われました。



野田金型の堀口社長の講演

■＜事業予定＞

インドネシア金型工業会訪日
ビジネスマッチング（商談会）

－国レベル・団体レベルの
交流をベースとした商談会－

今秋、インドネシア金型工業会がビジネスマッチングとして10月30日から11月5日のスケジュールで日本訪問（中京地域&関西地域）を予定しています。

西部支部の会員皆様との（商談会）ビジネスマッチングを大阪で開催致しますので、インドネシア企業とのコミュニケーションをご希望の皆様は是非ご参加下さい。

正式な日時・訪日企業リストが確定次第お知らせ申し上げます。

インドネシアと社団法人日本金型工業会の縁は深く。

2006年1月に当時国際委員長の横田悦二郎氏と中里常務理事が帝国ホテルでインドネシアのカラ副大統領並びに同国の経済担当大臣、工業大臣、商業大臣と会談を行い、将来、インドネシアが発展するには日本の金型企業が重要であることをご理解頂きました。

その関係で同年5月にインドネシア金型工業会が設立され、その時も横田氏並びに中里常務理事がインドネシアを訪問して設立に協力しました。

その後も上田会長、伊藤国際委員長が講演者として招待されています。

さらに一方では、インドネシア金型工業会による視察団が定期的に日本を訪問するなど、その縁が深まることによって日本企業の同国でのビジネスが動きやすくなっています。

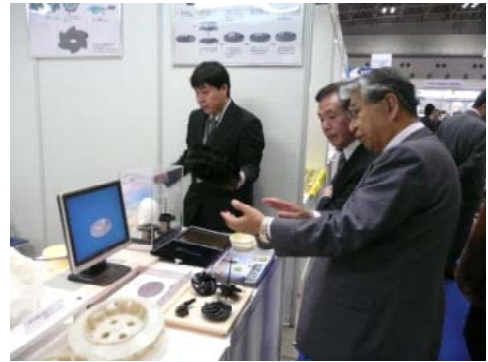


伊藤国際委員長とウイカラ副団長

そのような関係の延長上として単なる視察、単なる工場見学、単なる交流だけでなく、現実的なビジネスマッチングということで、伊藤国際委員長の提案で社団法人日本金型工業会からインドネシアとのビジネスマッチングを目的として今年の3月インドネシアを訪問、手応え有る成果を得たので、再度、来年の2月か3月に第2回インドネシアビジネスマッチングを予定しています。



インドネシア訪日団と当工業会会員



正会員展示コーナー

- ・御社の技術力を知ってもらいましょう！
- ・御社の存在を知ってもらいましょう！



正会員展示コーナー

インターモールド2012・金型展2012

会期：2012年4月18日(水)～21日(土)

会場：インテックス大阪

■＜参考資料＞■

昨年、社団法人日本金型工業会では上田勝弘会長の提案「全国1本化」について議論されました。

以下がその提案内容ですが、西部支部会員の皆様はこの提案書を読まれているのでしょうか？

退会された会員の皆様は、この提案を読まれて、この提案に反対して退会されたのでしょうか？

(注意) この提案書は昨年5月に作成されたものです。

会員の皆様へ

全国1本化の提案

～今後の日本金型工業会

より強固な全国1本化への提案～
(無駄の排除と戦力の集中)

提案者

社団法人日本金型工業会

会長 上田勝弘

■＜事業予定＞

インターモールド2012大阪

正会員限定の＜無料＞展示コーナー

近々に出展正会員企業募集！

JAPAN INTERNATIONAL DIE & MOLD MANUFACTURING TECHNOLOGY EXHIBITION
INTERMOLD 2012
第23回金型加工技術展

- ・明確な正会員メリット！
- ・正会員は通常40万円程度の出展スペース&装飾費用が無料！年会費と比べて下さい！

- ・一企業人としての当たり前の提案です。
- ・皆さんの企業で無駄なことは団体でも無駄だと思います。

■はじめに

日本の金型業界を襲った世界同時不況と慢性的供給過多の環境の中で、会員企業を取り巻く環境は厳しい状況に劇的に変化致しました。当然、日本金型工業会という団体も従来通りの組織形態で運営していくことが出来ないことは誰もが認めることだと思います。

従来型の事業ではなく、もっと個々の会員企業に団体として何が出来るか突き詰めていかなければなりません。一方、その活動の原資となる会費収入は減少していくことも考慮しなければなりません。

そうなると当たりまえの事ではありますが、会員皆様と同じ一般企業の経営感覚を団体運営にも積極的に取り入れ、とにかく無駄を省き工業会の戦力（予算・マンパワー）を集中して今後の時代に挑まなければなりません。

そのためには、これまでのような連合会的部分を抱え込んだ全国組織の工業会運営では対処できないことは明らかです。よってここに無駄を排除して戦力を集中させた全国一本化の団体へのさらなる進化をご提案申し上げます。

基本的には工業会が4つ、3つと重複している仕事で1つにすることが可能なものは積極的に1つにするという当たり前の提案です。

■なぜ全国1本化なのか

現状の日本金型工業会は全国1組織の組織形態です。但し、部分的には連合会的部分も抱えております。その代表的な連合会的部分とは、本部・三支部の4つの各事務局が一つの独立した団体として4つの管理部門を持っていることです。一般的企業ならば支店・分工場に本社部門と同等の管理部門等を置くことは無いと思います。

そこで私は工業会に一般企業理論をもって改革を行い、1つに集約できるものは1つに集約することをご提案致します。これは一般企業経営者としては当たり前の提案だと思っていますので、当然、会員皆様にもご理解ご賛同頂けるものと思っています。

これまで3つ4つ別々にやってきたから今後もそのままという理論は今の厳しい時代に通用致しません。

■1本化でサイフが一つになるって？

日本金型工業会の規模で、本部・三支部で4つ

の経理部門（4つのサイフ）を置いていることは無駄です。

ですから工業会の経理部門（サイフ）を1ヶ所（1つ）に集約することをご提案致します。これが工業会のサイフの一つにすることです。

例えば、その1ヶ所の経理部門（サイフ）で、会費の徴収、事務所賃貸料支払い、リース料支払い、給料支払い等1ヶ所に対応できる経理関係（管理部門関係も）の全てを行います。

■1本化で支部はどうなるのか(変わらない部分)

会員は従来通りに東部支部・中部支部・西部支部によるグループごとに活動して頂きます。当然、各支部内における部会・地区会も従来通りの組織形態で活動して頂きます。

特に部会・地区会活動は工業会活動にとって一番重要な事業であり支部活動のメイン事業として位置付けています。

さらに各支部の若手の会（天青会・イーグル会・型青会）も従来通りの若手の会として各支部単位で活動して頂きます。

■1本化で支部の運営強化積立金はどうなるか。(変わらない部分)

各支部が積み立ててきました運営強化積立金に関しても、各支部の管理にて運用して頂きます。但し、公益法人制度改革による公益目的支出計画の範囲の支出運用となります。

■1本化で毎年度の予算配分はどうなるのか。

毎年度の予算の各支部間の配分については、基本的には各支部の所属会員数割（正確には会費納入額割）で支部ごとに配分致します。

当然、各年度ごとに残った予算については各支部の判断で運用管理して頂きます。

■支部ごとの特色について

工業会1本化に対して「各支部ごとの特色が有る」とのアドバイスを頂きますが、3支部の事業内容を見比べて頂くと、事業名は確かに各支部違った名称で開催場所も異なりますが、中身をよくよく見ると、技術セミナー・経営セミナー・工場見学会など、ほぼ同じような事業内容のように見受けられます。同じ金型業者が求める事業ですから当然な事かも知れません。

今後、事業内容の1本化については検討が必要かと思いますが、開催場所については出来る限り各地域にて開催することが望ましいと思います。

一方、間違いなく支部ごとに特色が有る事業はございます。

それは部会、地区会、会員向けの福利厚生事業だと思えます。これら事業は工業会の根本であり一番重要な事業でございますので、今後も各支部の特色を生かした支部のメイン事業としての活動をお願いしたいと思えます。

■ 1本化で変わる部分

これまで4カ所あるいは3カ所で重複して実施していた活動の中で一つに集約できるものは積極的に一つに集約して会員サービスを実施します。

以下が具体的提案の一部です。

○本部・三支部で4つの管理部門を抱えていたものを一つにします。

すなわち、4ヶ所で別々に経理担当者を置いて行ってきた4つの経理を1ヶ所1つの経理にします。

○本部・三支部で発行していた会報を工業会一つの会報に集約して発行します。当然、各支部の情報も掲載されます。

<補足説明>

重複した会報発行については、各支部が広告費で支出をカバーしているので問題無いとのご意見がございますが、従来通りに今後も広告収入が得られるか。広告掲載者の主な賛助会員は重複して広告を掲載しなければならない負担がある。会報作成に費やされている事務局職員の人件費を含むと収支バランスがとれているか疑問です。

○本部・三支部で4つのホームページを運営していますが、それを全国一つのホームページとして充実した運営を行ってまいります。

○全国共通したニーズに基づいた事業は、可能であれば全国共通事業として同じメニュー内容で複数地域での開催を行います。(21年度に東京・名古屋・大阪の3地点同内容の技術セミナー開催事業をテスト済みです)

■ 地方を切り捨ててはいけない(変わる部分)

現在、東部支部・中部支部・西部支部の3支部体制で全国をカバーしていますが、実質は東京・名古屋・大阪近郊に偏っており、三大都市以外の地方をカバーしきれしていません。

今後は地方の声を積極的に吸い上げなくてはなりません。

つきましては北海道支部・東北支部・四国支部・九州支部あるいは県単位、地域単位の支部設置も考えていきたいと思えます。

これは全国1本化した団体だから可能なことです。すなわち所属会員が少ない支部(2~3社)であっても、支部運営の事務局・管理部門などは、全国を担当する事務局・管理部門が面倒をみます

ので、小規模支部は多くの予算を必要無く支部運営が可能となります。

■ 役員・委員の工業会公務への交通費支給(少し変わる部分)

企業経営者として経費節減を社内に強く要求している立場の工業会役員・委員の皆様には申し訳ございませんが、今後も従来どおり無償奉仕による工業会活動へのご協力をお願い致します。

但し、1本化による経費節減分から役員・委員の皆様の工業会公務による交通費のある程度支給は実施したいと考えています。

■ 1本化のもう一つのメリット

日本の金型企業は20名以下の事業所が90%近く占める小規模企業の集まりです。

その小規模企業の小さな声を政府などに温度差無く伝えるには、やはり「日本」の看板を持った全国1本化された団体に皆様が直接会員として加盟して頂くことが重要だと思います。

規模小さくとも地方にいなながらも全日本の代表会員として皆様と今後も一緒に歩んでいきたいと思っております。そのために工業会1本化をご提案を申し上げますので、まずは、上記までの内容の範囲にて工業会一本化についてご理解ご賛同頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

以上。

会員企業は事業縮小、リストラ等で血を流しています。団体も思い切った改革が必要です。

この提案は間違っているでしょうか？

実際に実施する場合は、詳細等検討を行い機関決定を得て進めます。

まずは総論でご賛同を求めましたが・・・。

(注意) この提案は昨年5月時点で作成したものです。

金型の全国団体として西日本を担当する

社団法人日本金型工業会西部支部

〒541-0054 大阪府大阪市中央区南本町4-3-6

大阪府商工会館502号室

電話 06-6271-7930・06-6271-7939

FAX 06-6252-7194